

## 材料の力学1 Step 1 第6回演習問題 (2021/5/25 実施)

- [1] 平面応力状態にある十分に薄い弾性体において、図1のように  $x$ - $y$  座標系から反時計回りに  $60^\circ$  傾いた  $n$ - $t$  座標系に沿う正方形微小要素を考える。薄い弾性体に対して  $x$  方向に引張応力  $5\sigma$ ,  $y$  方向に圧縮応力  $9\sigma$  が作用している。弾性体の縦弾性係数を  $E$ , 横弾性係数を  $G$ , ポアソン比を  $\nu$  として、以下の設問に答えよ。

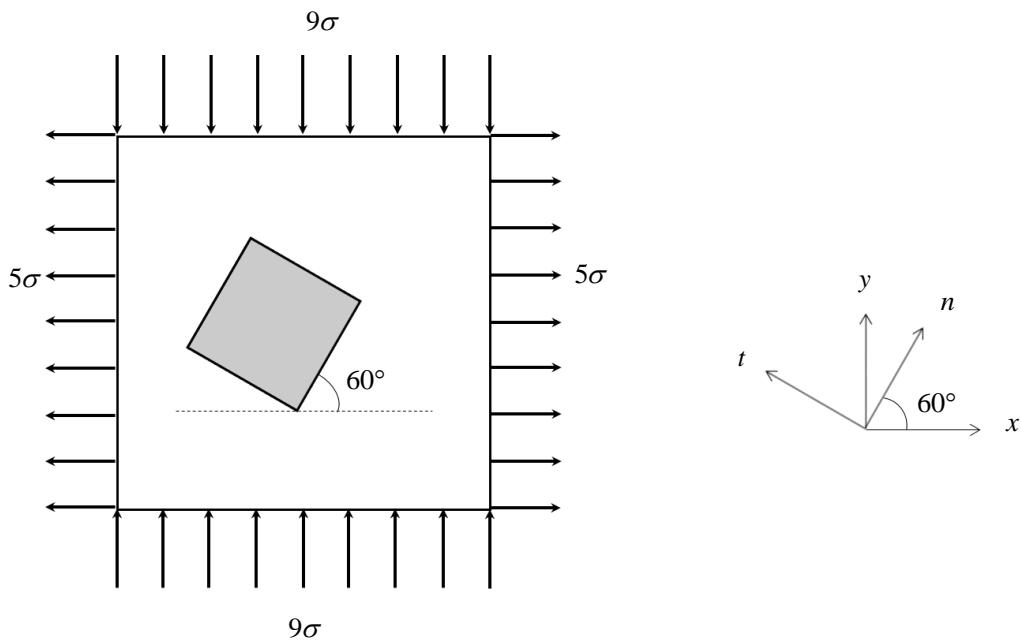


Fig. 1 平面応力状態にある弾性体。

- (1)  $x$ - $y$  座標系における応力テンソルからモールの応力円を描き、その中心と半径を求めよ。
- (2) (1)で描いたモールの応力円より、 $n$ - $t$  座標系における応力テンソル  $[\sigma_{ij}]$  を求めよ。
- (3)  $x$ ,  $y$  方向のひずみ  $\varepsilon_x$ ,  $\varepsilon_y$  とせん断ひずみ  $\gamma_{xy}$  をそれぞれ  $\sigma$ ,  $E$ ,  $\nu$  を用いて表せ。
- (4)  $x$ - $y$  座標系におけるひずみテンソルからモールのひずみ円を描き、その中心と半径を求めよ。
- (5) (4)で描いたモールのひずみ円より、 $n$ - $t$  座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{ij}]$  を求めよ。
- (6)  $n$ - $t$  座標系におけるせん断応力  $\tau_{nt}$  とせん断ひずみ  $\gamma_{nt}$  の関係を踏まえ、横弾性係数  $G$  を  $E$ ,  $\nu$  を用いて表せ。

[1]

(1)  $x-y$  座標系における応力テンソルからモールの応力円を描き、その中心と半径を求めよ。

図から、 $x-y$  座標系における応力テンソル  $[\sigma_{ij}]$  は次式で表される。

$$[\sigma_{ij}] = \begin{pmatrix} \sigma_x & \tau_{xy} \\ \tau_{xy} & \sigma_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5\sigma & 0 \\ 0 & -9\sigma \end{pmatrix} \quad (1.1)$$

よって、モールの応力円は図 1.1 のようになる。

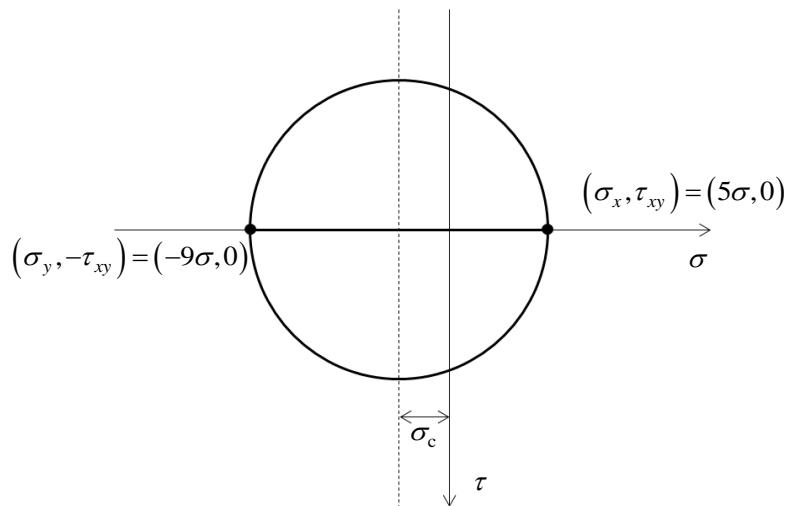


Fig. 1.1 モールの応力円。

また、図 1.1 よりモールの応力円の中心  $(\sigma_c, 0)$  および半径  $r$  は次のようになる。

$$\sigma_c = \frac{1}{2}(\sigma_x + \sigma_y) = -2\sigma \quad (1.2)$$

$$r = \frac{1}{2}|\sigma_y - \sigma_x| = 7\sigma \quad (1.3)$$

(2) (1)で描いたモールの応力円より、 $n-t$  座標系における応力テンソル  $[\sigma_{ij}]$  を求めよ。

*n-t* 座標系は *x-y* 座標系を反時計回りに  $60^\circ$  回転させたものであるため、モールの応力円上では反時計回りに 2 倍の  $120^\circ$  回転させればよい。よって、モールの応力円は図 1.2 のように描くことができる。

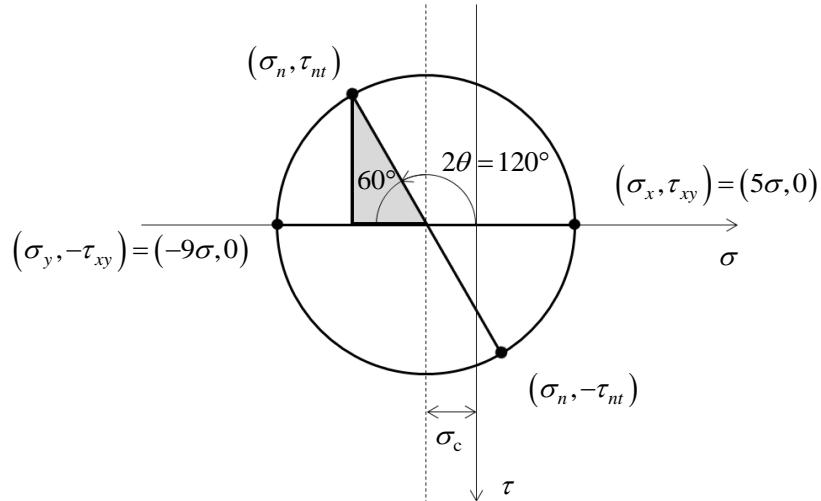


Fig. 1.2  $120^\circ$  回転させたモールの応力円。

図 1.2において塗りつぶされた直角三角形を用いて  $\sigma_n$ ,  $\sigma_t$ ,  $\tau_{nt}$  を求める。直角三角形の斜辺はモールの応力円の半径より  $r=7\sigma$  である。よって、 $(\sigma_n, \tau_{nt})$  および  $(\sigma_t, -\tau_{nt})$  の座標はそれぞれ以下の式で与えられる。

$$\begin{aligned}
 (\sigma_n, \tau_{nt}) &= \left( \sigma_c - \frac{7}{2}\sigma, -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right) \\
 &= \left( -2\sigma - \frac{7}{2}\sigma, -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right) \\
 &= \left( -\frac{11}{2}\sigma, -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right)
 \end{aligned} \tag{1.4}$$

$$\begin{aligned}
(\sigma_t, -\tau_{nt}) &= \left( \sigma_c + \frac{7}{2}\sigma, \frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right) \\
&= \left( \frac{3}{2}\sigma, \frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right)
\end{aligned} \tag{1.5}$$

式(1.4), (1.5)より,  $n-t$  座標系における応力テンソル  $[\sigma_{ij}]$  は次のようになる.

$$\begin{bmatrix} \sigma_{ij} \end{bmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_n & \tau_{nt} \\ \tau_{nt} & \sigma_t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\frac{11}{2}\sigma & -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \\ -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma & \frac{3}{2}\sigma \end{pmatrix} \tag{1.6}$$

(3)  $x, y$  方向のひずみ  $\varepsilon_x, \varepsilon_y$  とせん断ひずみ  $\gamma_{xy}$  をそれぞれ  $\sigma, E, \nu$  を用いて表せ.

平面応力状態を仮定しているため, 応力一ひずみの関係式から  $x-y$  座標系における垂直ひずみ  $\varepsilon_x, \varepsilon_y$  とせん断ひずみ  $\gamma_{xy}$  はそれぞれ以下のように表される.

$$\varepsilon_x = \frac{1}{E} (\sigma_x - \nu \sigma_y) \tag{1.7}$$

$$\varepsilon_y = \frac{1}{E} (\sigma_y - \nu \sigma_x) \tag{1.8}$$

$$\gamma_{xy} = \frac{\tau_{xy}}{G} \tag{1.9}$$

式(1.7), (1.8), (1.9)に  $\sigma_x=5\sigma, \sigma_y=-9\sigma, \tau_{xy}=0$  を代入すると  $x-y$  座標系における垂直ひずみ  $\varepsilon_x, \varepsilon_y$  とせん断ひずみ  $\gamma_{xy}$  はそれぞれ以下のようにになる.

$$\begin{aligned}
\varepsilon_x &= \frac{1}{E} \{ 5\sigma - \nu \cdot (-9\sigma) \} \\
&= \frac{\sigma}{E} (5 + 9\nu)
\end{aligned} \tag{1.10}$$

$$\begin{aligned}
\varepsilon_y &= \frac{1}{E} \{ (-9\sigma) - \nu \cdot 5\sigma \} \\
&= -\frac{\sigma}{E} (9 + 5\nu)
\end{aligned} \tag{1.11}$$

$$\begin{aligned}\gamma_{xy} &= \frac{0}{G} \\ &= 0\end{aligned}\tag{1.12}$$

(4)  $x$ - $y$  座標系におけるひずみテンソルからモールのひずみ円を描き、その中心と半径を求めよ。

式(1.10), (1.11), (1.12)より  $x$ - $y$  座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{ij}]$  は次のようになる。

$$\left[ \varepsilon_{ij} \right] = \begin{pmatrix} \varepsilon_x & \frac{\gamma_{xy}}{2} \\ \frac{\gamma_{xy}}{2} & \varepsilon_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{\sigma}{E}(5+9\nu) & 0 \\ 0 & -\frac{\sigma}{E}(9+5\nu) \end{pmatrix} \tag{1.13}$$

式(1.13)をもとにモールのひずみ円を描くと図 1.3 のようになる。

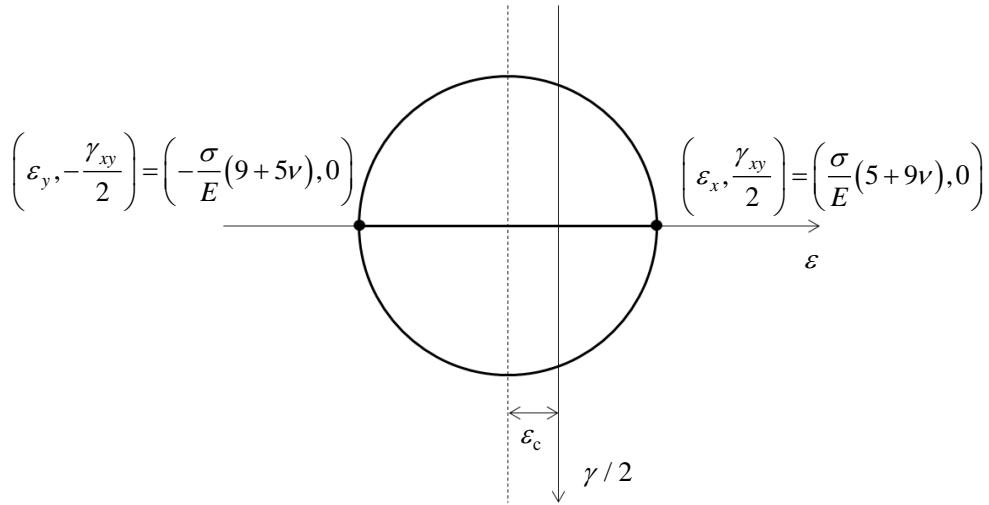


Fig. 1.3 モールのひずみ円。

また、モールのひずみ円の中心  $(\varepsilon_c, 0)$  よび半径  $r$  は次のようになる。

$$\begin{aligned}\varepsilon_c &= \frac{1}{2}(\varepsilon_x + \varepsilon_y) = \frac{2\sigma}{E}(-1+\nu) \\ (\varepsilon_c, 0) &= \left(\frac{2\sigma}{E}(-1+\nu), 0\right)\end{aligned}\tag{1.14}$$

$$r = \frac{1}{2}|\varepsilon_y - \varepsilon_x| = \frac{7\sigma}{E}(1+\nu)\tag{1.15}$$

(5) (4)で描いたモールのひずみ円より、 $n-t$  座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{ij}]$ を求めよ。

モールの応力円と同様、モールのひずみ円上で反時計回りに  $2\theta=120^\circ$  回転させると図 1.4 のようになる。

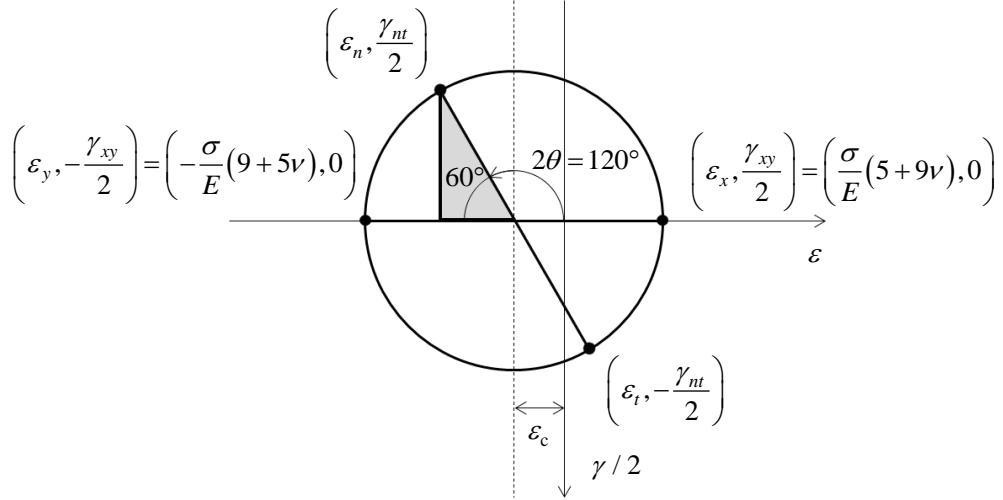


Fig. 1.4  $120^\circ$  回転させたモールのひずみ円。

図 1.4において塗りつぶされた直角三角形を用いて  $\varepsilon_n$ ,  $\varepsilon_t$ ,  $\gamma_{nt}/2$  を求める。直角三角形の斜辺はモールのひずみ円の半径より  $r=7\sigma(1+\nu)/E$  である。よって、 $\varepsilon_n$ ,  $\varepsilon_t$ ,  $\gamma_{nt}/2$  はそれぞれ以下の式で与えられる。

$$\begin{aligned}\varepsilon_n &= \varepsilon_c - \frac{7\sigma}{2E}(1+\nu) \\ &= \frac{2\sigma}{E}(-1+\nu) - \frac{7\sigma}{2E}(1+\nu) \\ &= -\frac{\sigma}{2E}(11+3\nu)\end{aligned}\tag{1.16}$$

$$\begin{aligned}\varepsilon_t &= \varepsilon_c + \frac{7\sigma}{2E}(1+\nu) \\ &= \frac{\sigma}{2E}(3+11\nu)\end{aligned}\tag{1.17}$$

$$\frac{\gamma_{nt}}{2} = -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu)\tag{1.18}$$

したがって、*n-t* 座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{nt}]$  は次のようになる。

$$\begin{bmatrix} \varepsilon_{ij} \end{bmatrix} = \begin{pmatrix} \varepsilon_n & \frac{\gamma_{nt}}{2} \\ \frac{\gamma_{nt}}{2} & \varepsilon_t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\frac{\sigma}{2E}(1+3\nu) & -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu) \\ -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu) & \frac{\sigma}{2E}(3+11\nu) \end{pmatrix} \quad (1.19)$$

- (6) *n-t* 座標系におけるせん断応力  $\tau_{nt}$  とせん断ひずみ  $\gamma_{nt}$  の関係を踏まえ、横弾性係数  $G$  を  $E$ ,  $\nu$  を用いて表せ。

*n-t* 座標系において、せん断応力  $\tau_{nt}$  およびせん断ひずみ  $\gamma_{nt}$  は横弾性係数  $G$  を用いて以下のように表される。

$$\tau_{nt} = G\gamma_{nt} \quad (1.20)$$

式(1.20)に式(1.6)および式(1.18)より  $\tau_{nt}$ ,  $\gamma_{nt}$  を代入すると次のようになる。

$$-\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma = G \cdot 2 \left\{ -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu) \right\} \quad (1.21)$$

これを整理すると、

$$\begin{aligned} G &= -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \left\{ -\frac{E}{7\sqrt{3}\sigma(1+\nu)} \right\} \\ &= \frac{E}{2(1+\nu)} \end{aligned} \quad (1.22)$$

となる。

- [2] 板厚が十分に薄い弾性体表面のある点での応力状態を求めるため、図 2 に示すような  $45^\circ$  傾けた三軸ひずみゲージを貼り付けた。それぞれのひずみゲージから測定した値は  $\varepsilon_x = 150\mu$ ,  $\varepsilon_y = -50\mu$ ,  $\varepsilon_{45^\circ} = -50\mu$  ( $\mu = 1.00 \times 10^{-6}$ ) であった。この弾性体の縦弾性定数  $E = 91.0 \text{ GPa}$ , ポアソン比  $\nu = 0.3$  とし以下の設問に答えよ。ただし、回転方向は反時計回りを正とし、必要であれば  $\sqrt{2} = 1.41$  を用いて、有効数字 3 行で解答せよ。

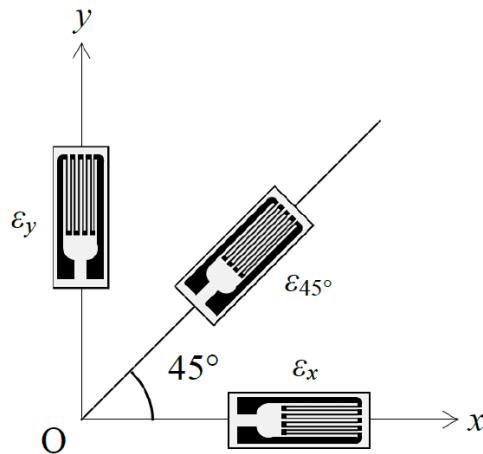


Fig.2 三軸ひずみゲージ模式図

- (1) (i) 各ひずみゲージの値とひずみの座標変換式より、せん断ひずみ  $\gamma_{xy}$  を求め、 $x-y$  座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{ij}]$  を求めよ。  
 (ii) 求めたひずみテンソルより、モールのひずみ円を描き、その中心と半径を示せ。
- (2) 前問で描いたモールのひずみ円より、主ひずみ( $\varepsilon_1$ ,  $\varepsilon_2$ )および主ひずみ方向( $\theta_1$ ,  $\theta_2$ )を求めよ。ただし、 $-90^\circ \leq \theta_1, \theta_2 \leq 90^\circ$  とする。
- (3) 応力-ひずみの関係式より、主応力( $\sigma_1$ ,  $\sigma_2$ )を求めよ。
- (4) 板厚方向のひずみ  $\varepsilon_z$  を求めよ。ただし、 $\sigma_x + \sigma_y = \sigma_1 + \sigma_2$  であることを用いてよい。

※ひずみの座標変換式

$$\varepsilon_\theta = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta$$

※応力-ひずみの関係式

$$\sigma_1 = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_1 + \nu \varepsilon_2), \quad \sigma_2 = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_2 + \nu \varepsilon_1)$$

(1)(i) 各ひずみゲージの値とひずみの座標変換式より、せん断ひずみ  $\gamma_{xy}$  を求め、 $x$ - $y$  座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{ij}]$  を求めよ。

ひずみの座標変換式は次式で表される。

$$\varepsilon_\theta = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta \quad (2.1)$$

式(2.1)に  $\theta = 45^\circ$  を代入すると次式が得られる。

$$\varepsilon_{45^\circ} = \frac{1}{2}(\varepsilon_x + \varepsilon_y + \gamma_{xy}) \quad (2.2)$$

上式に各ひずみゲージで得た値  $\varepsilon_x = 150\mu$ ,  $\varepsilon_y = -50\mu$ ,  $\varepsilon_{45^\circ} = -50\mu$  を代入し、 $\gamma_{xy}$  について整理することできせん断ひずみを算出することができる。

$$\begin{aligned} \gamma_{xy} &= 2\varepsilon_{45^\circ} - (\varepsilon_x + \varepsilon_y) \\ &= 2 \times (-50\mu) - (150 - 50)\mu = -200\mu \end{aligned} \quad (2.3)$$

これより  $x$ - $y$  座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{ij}]$  は次のようになる。

$$[\varepsilon_{ij}] = \begin{pmatrix} \varepsilon_x & \frac{\gamma_{xy}}{2} \\ \frac{\gamma_{xy}}{2} & \varepsilon_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 150\mu & -100\mu \\ -100\mu & -50.0\mu \end{pmatrix} \quad (2.4)$$

(ii) 求めたひずみテンソルより、モールのひずみ円を描き、その中心と半径を示せ。

(i)より求めた $(\varepsilon_x, \gamma_{xy}/2) = (150\mu, -100\mu)$ ,  $(\varepsilon_y, -\gamma_{xy}/2) = (-50\mu, 100\mu)$ をプロットしてモールのひずみ円を描くと図 2.1 のようになる。

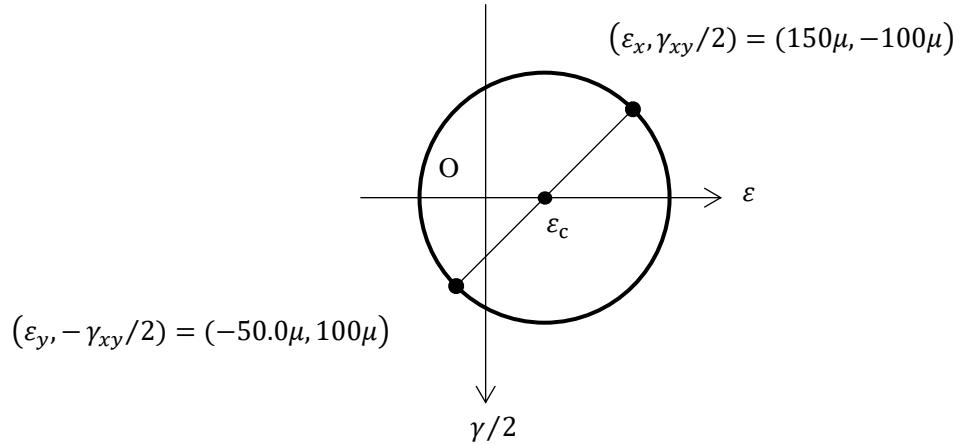


Fig.2.1 モールのひずみ円

中心座標 $(\varepsilon_c, 0)$ 、半径  $r$  は以下のようにして求められる。

$$(\varepsilon_c, 0) = \left( \frac{\varepsilon_x + \varepsilon_y}{2}, 0 \right) = \left( \frac{150\mu - 50\mu}{2}, 0 \right) = (50.0\mu, 0) \quad (2.5)$$

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2} \sqrt{(\varepsilon_x - \varepsilon_y)^2 + 4 \left( \frac{\gamma_{xy}}{2} \right)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(150\mu + 50\mu)^2 + 4(100\mu)^2} \\ &= 100\mu\sqrt{2} = 141\mu \end{aligned} \quad (2.6)$$

(2) 前問で描いたモールのひずみ円より、主ひずみ( $\varepsilon_1, \varepsilon_2$ )および主ひずみ方向( $\theta_1, \theta_2$ )を求めよ。ただし、 $-90^\circ \leq \theta_1, \theta_2 \leq 90^\circ$ とする。

主ひずみ( $\varepsilon_1, \varepsilon_2$ )および主ひずみ方向( $\theta_1, \theta_2$ )はモールのひずみ円上において以下の図 2.2 のように表される。

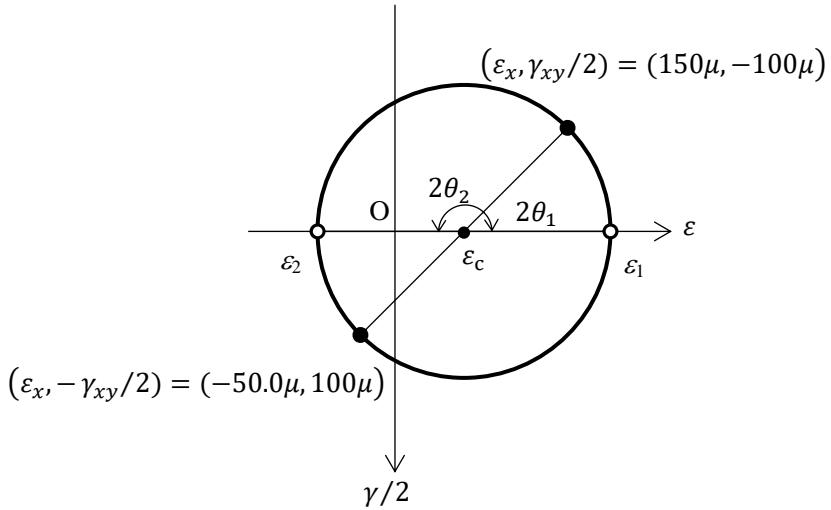


Fig.2.2 主ひずみおよび主ひずみ方向

上図より主ひずみおよび主ひずみ方向は以下のように表される。

$$\begin{pmatrix} \varepsilon_1 \\ \varepsilon_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \varepsilon_c + r \\ \varepsilon_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 50\mu + 141\mu \\ 50\mu - 141\mu \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 191\mu \\ -91.0\mu \end{pmatrix} \quad (2.7)$$

$$\begin{aligned} \theta_1 &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{\gamma_{xy}}{\varepsilon_x - \varepsilon_y} \right| \\ &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{-200\mu}{150\mu + 50\mu} \right| = -22.5[\text{deg}] \end{aligned} \quad (2.8)$$

主ひずみ方向は直交するので、 $\theta_2 = \theta_1 + 90^\circ = 67.5[\text{deg}]$  と得られ、主ひずみ方向は次のように求まる。

$$\begin{pmatrix} \theta_1 \\ \theta_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -22.5 \\ 67.5 \end{pmatrix} [\text{deg}] \quad (2.9)$$

(3) 応力一ひずみの関係式より、主応力( $\sigma_1, \sigma_2$ )を求めよ。

応力一ひずみの関係式より、主応力 ( $\sigma_1, \sigma_2$ ) は以下のように求まる。

$$\begin{aligned}\sigma_1 &= \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_1 + \nu \varepsilon_2) \\ &= \frac{91 \times 10^9}{1-0.3^2} \times \{191 + 0.3 \times (-91)\} \times 10^{-6} = 16.4 \text{ [MPa]}\end{aligned}\quad (2.10)$$

$$\begin{aligned}\sigma_2 &= \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_2 + \nu \varepsilon_1) \\ &= \frac{91 \times 10^9}{1-0.3^2} \times (-91 + 0.3 \times 191) \times 10^{-6} = -3.37 \text{ [MPa]}\end{aligned}\quad (2.11)$$

よって、

$$\begin{pmatrix} \sigma_1 \\ \sigma_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 16.4 \\ -3.37 \end{pmatrix} \text{ [MPa]} \quad (2.12)$$

(4) 板厚方向のひずみ $\varepsilon_z$ を求めよ。ただし、 $\sigma_1 + \sigma_2 = \sigma_x + \sigma_y$ であることを用いてよい。

平面応力状態より  $\sigma_z = 0$  であることに注意すると、応力一ひずみの関係式より板厚方向のひずみは次のように求まる。

$$\begin{aligned}\varepsilon_z &= \frac{1}{E} \{ \sigma_z - \nu (\sigma_x + \sigma_y) \} \\ &= -\frac{\nu (\sigma_1 + \sigma_2)}{E} \\ &= -\frac{0.3 \times (16.4 - 3.37) \times 10^6}{91 \times 10^9} \\ &= -43.0 \mu \quad (\text{or } -4.30 \times 10^{-5})\end{aligned}\quad (2.13)$$